

# ウクライナの子どもたち救いの手を

ロシアによるウクライナ侵攻が続いている。鳴り響く銃撃、空爆音により、ウクライナ国民、とりわけ子どもたちのメンタルは崩壊寸前。ケアは急務だ。本欄では隈研吾さっぽろ未来まちづくり懇話会の主催で行われた「ウクライナの子どもたち救いの手を」をテーマとする座談会の模様を掲載する。  
(収録・5月10日)

## ウクライナの子どもたちを本道へ

司会 月刊クオリティ4月号で掲載された座談会は「さっぽろの未来まちづくり」がメインテーマでした。今回は当懇話会がかねてから取り組んでいる「ウクライナ支援」とりわけ子どもたちに対する支援についてがテーマです。

まずは、ウクライナの子どもたちに対する支援について意見を伺いたいのですが、末良さんは現地にも足を運ばれています。現地の子どもたちは

ういった部分にもっと積極的なケアが必要ではないでしょうか。末良 その通りです。メンタルケアは大使館も期待しているところ

現在はこうした子どもたちをはじめ、ウクライナ避難民の受け入れ態勢の整備が進められていますが、札幌市ではこういった方々の受け入れにどういった体制で取り組まれていますか。

久道 避難されてきた方には北海道や札幌出入国在留管理局と連携・情報共有しながら対応しており、要望に応じてメンタル面での支援や日本語教室等を通じた避難者同士のコミュニケーションも取られています。受け入れの大枠は国や北海道が対応

していますが、避難されてきた方の状況はさまざまなので、基礎自治体と

して個別に寄り添った支援が必要だと考えています。末良 受け入れ体制を強化する余地は大いにあります。そうですね。司会 そういった部分にはボランティアの力が不可欠と思いますが、五十嵐さんの組織はボランティア活動に尽力されていますね。私は東日本大震災

での活動が記憶に新しい。五十嵐 そうですね。かつて福島の子どもたちも相当なストレスを抱えていました。放射線の影響で長期間外出できなかつたわけですから。

我々はすぐに現地に向かい、100人ほどの子どもたちを北海道に招待しました。約2週間の滞在でしたが、トヨタ財団や道などからの支援がありました。少ない参加費で実施することができ、ご家族を含め大変喜んでくれました。

ウクライナの子どもたちに対してこうした取り組みを展開したいという声はたくさんありますので、国にはもっとわかりやすい、動きやすいスキームを構築していただきたいですね。

司会 当時は地元の子どもたちとの交流も大きなケアにつながったんじゃないですか。

五十嵐 その通りです。我々は児童会館の管理も手掛けており、そういった児童会館の子どもたちとの交流は極めて大きな「癒し」だったと実感しています。

末良 ウクライナの子どもたちを招待して、地元の子どもたちと交流を図ればストレスケアになることは間違いない。絵のコンテストやスポーツの催しなんかもいいですね。ぜひ実現させたい。

## 原点は「子どもたち、障がい者を守りたい」

司会 ではここで、現在当懇話会が取り組んでいるウクライナ支援についてご説明をいただきたい。武井 当懇話会が実施し

ているのは、消火用具の寄贈です。ただ単に支援金を集め、送金するだけでなく、本当に必要としているもの、急

を要するものという観点からです。末良 支援の原点は、介



北海道女性防火クラブ 連絡協議会会長 前川 典子氏  
帯広商工会議所専務理事 三井 真氏



株式会社ファイテック代表取締役 林 富徳氏  
(公財)さっぽろ青少年女性活動協会 札幌エルプラザ公共4施設館長 五十嵐 健二氏  
札幌市総務局国際部長 久道 義明氏



隈研吾さっぽろ未来まちづくり 懇話会理事 株式会社モナーク代表取締役 末良 則幸氏  
隈研吾さっぽろ未来まちづくり 懇話会幹事長 北洋設備設計事務所取締役会長 武井 正氏



隈研吾さっぽろ未来まちづくり 懇話会会長、FM協会専務理事 藤崎 昌甫氏



続きは『月刊クオリティ』本誌を  
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから  
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

**TEL 011-644-0101**

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)